

◆ CONTENTS ◆

目次

はじめに

第1章 複式簿記の原理

1. 複式簿記とは
 - (1) 複式簿記と単式簿記……………2
 - (2) 簿記でいう「取引」とは……………3
 - (3) 複式簿記のメリット……………4
2. 貸借対照表と損益計算書
 - (1) 貸借対照表……………6
 - (2) 損益計算書……………8
 - (3) 貸借対照表と損益計算書の関係……………10
3. 複式簿記一巡の流れ
 - (1) 帳簿と実務の流れ……………15
 - (2) 勘定……………17
 - (3) 記帳のルール……………18
 - (4) 期首（開始）貸借対照表の作成……………21
 - (5) 仕訳……………23
 - (6) 元帳への転記と集計……………26
 - (7) 試算表の作成……………29
 - (8) 決算整理と帳簿の締め切り……………33
 - (9) 精算表の作成……………35
 - (10) 次期（翌期首）貸借対照表の作成……………36

第2章 記帳の実務

- I. 勘定科目一覧表（例）……………40
- II. 期首貸借対照表の作成
 1. 資産の部……………44
 2. 負債の部……………46
- III. 期中取引の実際例
 1. 現金の出し入れ……………47
 2. 預金のおし入れ……………48
 3. 農産物等の販売代金の受け入れ……………50
 4. 助成金・共済金等の受け入れ……………52
 5. その他の収入の受け入れ……………53
 6. 費用の支払い……………54
 7. 売掛金・買掛金/未収金・未払金……………59
 8. 償却資産の取得・除却……………60
 9. 事業主貸と事業主借……………65
 10. 借入金・預り金等の受け入れ・返済……………67
- IV. 決算手続の説明
 1. 決算と決算手続
 - (1) 決算予備手続……………68
 - (2) 決算本手続……………68
 2. 試算表の作成
 - (1) 試算表の必要性……………69
 - (2) 試算表の機能と限界……………70

3. 決算整理と棚卸表
 - (1) 決算整理の意味……………72
 - (2) 決算整理事項……………72
 - (3) 棚卸表の作成……………72
 - (4) 決算整理仕訳……………73
4. 精算表の作成
 - (1) 精算表の意味……………75
 - (2) 精算表の形式と作成手順……………75
5. 帳簿の締め切りと財務諸表の作成
 - (1) 仕訳帳の締め切り……………78
 - (2) 元帳の締め切り……………80
 - (3) 財務諸表の作成……………84
 - (4) 当期純利益等の繰越し……………86
 - (5) 次期貸借対照表の作成……………86

V. 決算整理仕訳の実際例

1. 期中に算入していない売掛金・未収金に対する収益の計上及び買掛金・未払金に対する費用の計上……………87
2. 農産物の家事消費・事業消費の計上……………89
3. 農産物（米・麦等）の棚卸……………90
4. 農産物以外（肥料・農薬等の生産資材）の棚卸……………91
5. 農産物以外（販売用動物・未収穫農産物等）の棚卸……………92
6. 減価償却費の計上
 - (1) 農業の用に供する建物、構築物、農業機械、車両運搬具、動物、植物は固定資産台帳に記帳し、償却費を計上します……………93
 - (2) 減価償却費の仕訳……………104
7. 牛馬・果樹の育成費用の計上……………105
8. 家事関連費の家計分の按分……………107
9. 農業経営基盤強化準備金……………108

第3章 消費税課税事業者の仕訳実務

1. 消費税の課税事業者と免税事業者……………112
2. 消費税の経理方式……………113
3. 日常の経理処理の仕方……………115
4. 納付税額等の経理処理の仕方と所得税の決算との関係
 - (1) 一般課税と簡易課税……………117
 - (2) 一般課税の場合……………118
 - (3) 簡易課税の場合……………121

巻末資料

1. 所得税青色申告決算書……………124
2. 減価償却資産の耐用年数表（抄）……………130

第1章

複式簿記の原理

1. 複式簿記とは

(1) 複式簿記と単式簿記

ポイント

複式簿記の「複式」とは…

- ◎損益計算と財産計算の2種類の計算をするので複式簿記
- ◎一つの事象（取引）を原因と結果の二つの面から捉えるので複式簿記

複式簿記を理解するには、単式簿記との違いを知っておくことが大切です。

単式簿記は、主に収益（収入）や費用（支出）の発生を記録（記帳）することを目的とした簿記です。

単式簿記の代表的な帳簿として簡易帳簿があります。農業者向けに作られた簡易帳簿で記帳すれば、一年間の売り上げや経費を科目ごとに分類・集計することにより、最終的には、税務申告に必要な青色申告決算書や収支内訳書が作成でき、経営の一年間の成果としての「農業所得」の金額を明らかにすることができます。

収益と費用にかかわる計算なので、これを「**損益計算**」といいます。

複式簿記は、収益や費用の発生について記録する「**損益計算**」に加え、事業で使用する現金や預金のほか、土地、建物、農機具、果樹・牛馬など事業用の資産（債権や債務等も含みます）の増減変化を記録する「**財産計算**」を行います。

損益計算と財産計算の二通りの観点から記録するということは、例えば「庭先販売でトマトが5千円売れた」場合、考え方としては『トマトの売り上げが5千円あった。それによって（事業用の）現金が5千円増えた』と捉えます。

また、「農協の口座から農薬代1万円が引き落とされた」場合には、『農薬代が1万円かかった。それによって（事業用の）預金が1万円減った』と整理します。

このように複式簿記では、「トマトを売った」「農薬を買った」というだけではなく、それによって「何がどうなったのか」ということまで、言い換えれば「**原因と結果**」を記録します。これを複式簿記では**取引の二重性（または二面性）**といいます。

なお、複式簿記の損益計算によって作られる決算書が損益計算書、財産計算によって作られる決算書が（期末）貸借対照表です。

損益計算書によって計算された「利益（所得）」と貸借対照表によって計算された「利益（所得）」は必ず一致するなど、この両者には密接な関係がありますが、詳しくは後述します。